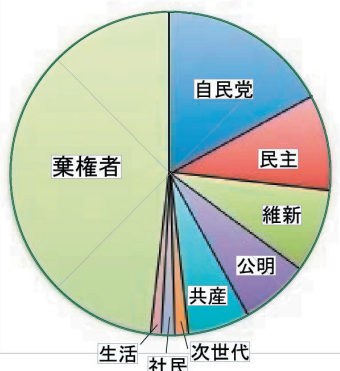


好期到来！ 選挙に行こう！

安倍政治を継承する
菅政権。総選挙に近い。
「自助で生きろ」と菅
総理。ならばこの自公
政権を自助で倒すしか
ない。選挙で倒すのが
簡単。棄権者に投票を
呼びかけよう。

前の総選挙結果
棄権者が47%

党派名	《比例代表》 得票数	絶対得票率 得票数÷有権
自民党	17,658,916	16.99 %
民主	9,775,991	9.40 %
維新	8,382,699	8.06 %
公明	7,314,919	7.04 %
共産	6,062,962	5.83 %
次世代	1,414,919	1.36 %
社民	1,314,441	1.26 %
生活	1,028,721	0.99 %
棄権者	49,219,687	47.34 %
全有権者	103,962,782	100.00 %
投票者	54,743,097	52.66 %



皆んなで選んだ
今月の秀句

前任のまんま引き継ぐ泥の船
雨傘に血の雨が降る無法都市

若林 高坊
遠田 亀公子

菅政権が誕生。派閥推薦者を大臣に揃え、記者会見もやらず
学術会議委員の任命拒否。説明も拒否。ならば「国民の自助
努力」でご泥船政権を沈めるしかない。香港の市民を手本に
したい。雨傘運動で中国の暴圧に屈せず闘っている。(周)

例会案内

10月例会
投稿締切
課題「無」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

10月22日(木)
19日(月)
3句以内
5句以内

◆ 目次

川柳互選・課題吟「前」	2
自由吟	3
自選句・おたより	5
ほのぼの川柳	6
立入川柳	6
戦争前夜抄 ②1 《竹久夢二》	6
夢二は社会主義青年だった	6
「シベリア抑留記」を終えて	12
父の思い出、金沢での生活	16
編集後記を兼ねて	16

9月の 川柳互選

◆課題吟「前」

一人 3句以内吐

(投句12人／12人の互選)

3	前向きは半回転で後ろ向き	白眞弓	4	前例がないから出来ぬお役人	立東爺
1	前向きは半回転で後ろ向き	未知子	4	自助とは 自己責任で 全面に	宏
1	前のめりそんな姿が似合ってる	ダン吉	4	前屈みに成って安倍の跡を追う	大峰
1	川柳を頭でこねくり半人前	北の山	4	前回と同じ仮病で放り投げ	高坊
2	「菅」従前を アベ踏襲し肅々と	宏	5	前からも うしろ姿も アベ踏襲	宏
2	今日もれいわのゲリラ街宣 駅前で	未知子	5	前髪を掴んだつもりがスカだった	白眞弓
2	家族でも前にも行けぬコロナの死	広助	5	前もって結果が見えた党首の座	高坊
2	前総理踏襲だけは止めよう新総理	未知子	6	崩壊しているアベノミクスへまた前進	徹乗
2	GOTOで三步前出て感染者	立東爺	6	踏まれても蹴散らされても前を向く	亀公子
3	前線はきつと死ぬ者ばかりだな	ダン吉	6	最前線辺野古に続く座り込み	亀公子
3	前借も出来ずコロナの垂れ流し	大峰	7	前向きになつて八十路でスマホ買う	広助
3	川柳はおもわず吹き出し一人前	北の山	7	生保申請門前払い自助の国	白眞弓
3	総理の名前「カン」と言ってる副総理	徹乗	7	前面に自助を押し出すス力政権	林
3	前向こうかすかでもよし道がある	ダン吉	8	海を見る 九年前の 忌まわしさ	広助
			8	無策にも前へ倣えの新政権	北の山
			8	戦前の兆し敵基地攻撃論	徹乗
			9	前例は直ぐに忘れるいいお国	立東爺

10	アメリカの前を走れと地位協定	大峰	1	のぼり旗 霊園入口大売り出し	未知子
10	日本の前途を開かず「新自由」	林	1	堂々と△△人を殺せと叫ぶこんな国	未知子
11	たくさんの前科を持つてる安倍の影	林	2	デジタル化足を引つ張る古株たち	徹乗
11	前任のまんま引き継ぐ泥の船	高坊	2	食うて寝て言いたいことは言うてやる	ダン吉
12	国会の前に陣取るムシ国旗	亀公子	2	うっかりが三度夕日が今沈む	ダン吉
◆自由吟 (互選) ◆					
一人 5 句以内吐 (投句 12 人 / 12 人の互選)					
	遠い国と仲良しは 第一防衛策	未知子	2	公助の姿見えない日常へ	林
	コロナ禍で 五輪より先 医療ワクチン	宏	2	GOTO であの世に GOTO ちよと待て	未知子
	安倍辞任にやけた岸田しゅんとなる	徹乗	3	天国へGO となりそな四連休	徹乗
	消しゴムを食卓で探す老夫婦	北の山	3	三猿にされ自粛に耐えて居る	大峰
	敗れたが汗にすっかり学びたい	ダン吉	3	NHK 報道矜持 ^{きようじ} 今いずこ	宏
	核兵器昔話になるだろう	ダン吉	3	秋の雲私も急ぎ足になる	ダン吉
1	三密を避けて食べようあんみつを	北の山	4	独裁を支えた菅に高い支持	徹乗
1	組閣人事フィンランドが羨ましい	高坊	4	沖縄の兵舎にコロナ兵が呻いている	大峰
1	党の底すで見えた自民党	高坊	4	ままごとにコロナの日常盛り込まれ	徹乗
			4	悪政を継承しますと菅政権	広助
			4	戦争法 九条壊して 負の遺産	宏

5	輪になって歌った昭和反戦歌	広助
5	フタしても腐臭放つサギ桜	林
5	踏襲だけ一枚看板立候補	立東爺
5	安倍辞任終わったことは蓋をする	広助
5	ご時世は菓子箱に金 かね 世は田沼	立東爺
5	コロナ禍がばらした日本のIT化	白眞弓
6	ウィルスを背負って子等の里帰り	大峰
6	無農薬満足ですと虫の声	広助
6	日本史を汚してアベノミクス朽ちていく	大峰
6	コロナ禍で群衆操縦学ぶ国	白眞弓
7	桜会 説明無しで 中止かよ	宏
7	寿都町 金に翻弄 ほんろう 核のゴミ	宏
7	反戦の怒りが足りぬ彬の忌	広助
7	防災は人柱立たねば動かない	立東爺
7	敵基地を撃つぞと叫ぶ病む心	林
7	ばつちりとお前を監視マイナカード	白眞弓
7	新政権疑惑の積荷そのままに	亀公子

7	自助共助だけで公助は見当たらず	白眞弓
8	安倍辞任途端に支持率上がるナゾ	北の山
8	弱き者自助せよ共助で生きていけ	立東爺
8	政権の疑惑隠しに晴れは無し	林
8	泥臭く見せても透ける腹の中	亀公子
9	ゴミ袋かぶって診察させる国	林
10	勝ち馬のご機嫌取りに走り出す	高坊
10	忬度の尺度で決める新ポスト	大峰
10	フクシマも辺野古も抜きが出来レース	亀公子
11	列島にコロナで喰えぬ冬が来る	亀公子
14	自助共助ついでに公助言ってみた	立東爺
16	雨傘に血の雨が降る無法都市	亀公子

自選句

◆自選句 中野 林

国民のために働らく例なし
公助にて財を成してる閣僚

コロナ禍で解雇されても自己責任

アベの影コロナ危機をも引き延ばす

内閣の支持率あげるメディアの愚

負の遺産背負って早くも狼狽える

命をも自分で守れと敬老の日

空高く掲げられてる自助の旗

靖国で閣議を開くつもりですが

◆自選句 前田 大峰

ボロボロの幕を晋三引きちぎる

株価上げ笑い止まらぬ富裕層

トランプの恫喝に差し出す防衛費

帰れとは言えない防衛分担金

コロナ自粛しても来ない安倍手前

おたより

◆寺内徹乗さんより（かほく市）

西田幾多郎のことで朝日新聞の取材を受けまし

た。西田の生誕150周年だそうで、西田を語る

シリーズの一人に、なぜか私が選ばれました。最

初は断ったのですが、断り切れませんでした。た

ぶんアンチ役でしょう。

連休は少人数で入院の対応をやらなければいけ

ないですし、毎回地獄なのですが、なんとか乗り

切りました。

◆遠田亀公子さんより（かほく市）

九月、一連の鶴彬顕彰の行事が終わりました。来

年はどうなるのでしょうか？「鶴彬川柳大賞」

で感じたこと。選者五人とも見事に川柳がバラバ

ラでした。考えてみたいと思います。

◆岩佐ダン吉さんより（大阪）

大阪では「誌上句会」に嫌気が差したのか一、二

通常句会とした柳社もありました。しかし参加者

は通常の時の半数以下、おまけに消毒液や検温器

の準備、さらには机や椅子の設営……終了後まで
 気を遣って、もうこりこりだの声も聞きました。

ほのぼの川柳

リレーする我が子の走り誇らしや

神田 鯛

虫追って捕るのがだんだん巧くなる

神田 鯛

宿題はやる気が出たらはよ終わる

神田 鯛

炎天にスイーッと孤を弾く赤トンボ

東 爺

眼を見れば判かる子どもの嘘ゲーム

東 爺

立入川柳

たちいり

(言葉を織り込む)

余りもの否だ沙汰待つお金持ち

作ってみました。安倍の時代にやめた大臣たち。

佐田・松岡は第1次の時ですが。

甘利 (2016) / 稲田 (2017) / 佐田 (2006) /

松岡 (2007) 自宅事務所費など —— 白眞弓

「あかつき」も「岸和田」も少なくとも年内は
 誌上にと腹を決め、どう参加者を増やすかと、新
 人ばかりの「教室」のメンバーにも呼びかけてい
 ます。

『戦争前夜抄』

21

周 立東爺

社会主義青年だった竹久夢二

前号に紹介した関東大震災下に起こされた暴力的
 権力犯罪は、何千人もの犠牲者を出した“戦争前夜”
 の象徴的な事件で、その後に起こされる侵略戦争を
 予感させる。過去の過ちを正確に次世代に伝えるの
 がいま生きている我々の責務だろう。

当時、この関東大震災に遭遇し自警団の犯罪など



竹久 夢二

1884年(明治17年)9月16日

～1934年(昭和9年)9月1日)

も知り、正義感から東京各地をまわり記録していた画家がいる。金沢にもゆかりのある挿絵画家・竹久夢二である。

夢二が描く数多くの美人画は「夢二式美人」と呼ばれ、「大正の浮世絵師」と言われた。児童雑誌や詩文の挿絵も描き、文筆の分野でも、詩、歌謡、童話など創作しており、中でも、詩『宵待草』は曲が付けられ(作曲・

多忠亮)、全国

的な愛唱歌となり現在も歌いつがれている。また多くの書籍の装幀、広告宣伝物、日用雑貨のほか、浴衣などのデ

ザインも手がけ、日本の近代グラフィック・デザインの草分けともいわれている。

全国各地に夢二の記念館がつくられ収蔵作品も多い。金沢にも郊外の湯涌温泉街に「金沢湯涌夢二館」があり、訪問客も多い。「夢二館」の収蔵品は1500点を数える。

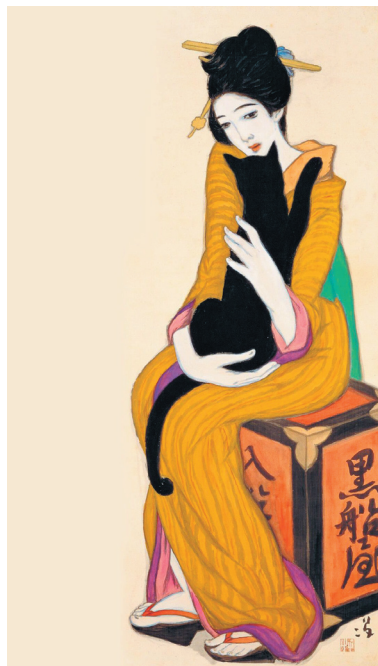
本稿をまとめようと思ったのは、乱鬼龍さんが登場したレイバーネット「あるくラジオ」を聞いたからだ。司会者(志真秀弘氏)が次のように話していた。

【司会】話題が脇にいくかもしれませんけど、みず書房の月刊誌『みず』で小沢信男さんが「賛々語々」を連載しています。岩波新書から『俳句世がたり』というまとめたものが出ています。本にまとめられられた後二〇一七年八月号の連載で、この句を初めて知ったんです。

『三年ぶりの手のない父に抱かれて寝』

これは誰の句かな、いつ作られたのだろう、戦後のものなのかなと思っただけと違う。これは竹久夢二の作なんです。明治四十年、一九〇七年、『平民新聞』に載った。日露戦争に行った父親が手をなくしてしまって、子どもを抱いて寝ている。

小沢さんはこの句の後、つまり日露戦争の三十年後、鶴彬のあの有名な『手と足をもいだ丸太にしてかへし』という川柳が出てくるという歴史のドラマを紹介している。日本の川柳の自由闊達な歴史、その中に若い竹久夢二もいたと。



「黒船屋」

この司会者の指摘で始めたのが竹久夢二調査である。その一端を報告したい。

まずは資料の収集と確認が必要である。偶然にも知人・金田小夜子さんが「金沢夢二会」の会員であることを知り、お話を聞きに伺い、資料もお借りできた。金田さんは「石川宝石・ルビーロマン」の名付け親で、ご存知の方もおられると思う。

夢二を調べると、本人の書物や画集の他に夢二研究の膨大な著書がある。大まかに分けて検討には次の三つのテーマに整理される。

- ① 絵やデザインなどの紹介と解説。
- ② 夢二を巡る女性に関するもの。
- ③ 初期に関わった「平民新聞」など社会との関わりと紹介。

ほとんどの人は、夢二が描く女性の絵から夢二を知っている。代表作『黒船屋』にみられる独特の「な

よなよ」とした女性描写である。そして、これらの絵のモデルとなった女性との関わり。少なくとも四人の女性が登場する。

これらは、特に金沢の人には湯涌温泉の夢二館の存在でよく知られている。膨大な絵やデザイン作品、女性の登場で話題に事欠かない。しかしその話題の影に埋もれて（あるいは意識して隠されて）きた部分が夢二の社会主義運動との関わりだろう。夢二が社会に向ける視点を理解することⅡ「如何にして夢二は社会主義に目覚めたか？」の理解が夢二芸術を理解することにつながるはずである。

ネットで購入した資料に『竹久夢二・夢と郷愁の詩人』（1968 紀伊國屋書店）がある。著者は詩人で文筆家・秋山 清である。秋山は鶴彬が特高に逮捕された時の職場Ⅱ木村通信社の同僚で、鶴彬が豊多摩病院で死去する半月ほど前こっそり病院を訪ね、見舞った人物でもある。鶴彬は話をする気力もなく痩せていたと語っている。同書から竹

久夢二と社会主義運動の関わりを引用する。（引用書・一二八頁）

× ×

「夢二が明治三十年代から社会主義運動に近づき、日露戦争への反戦運動で週刊「平民新聞」が禁止された以後の後継紙「光」「直言」などにさし絵をかくて知られたことは今では、夢二を語る大方の人の知るところとなっている。まだ社会主義に心を



寄せせる人がすくなかった時代でもあり、その新聞に協力した画家といえは小川芋銭や平福百穂などとともにすぐ竹久夢二の名が出るほどに、その仕事は注目されたようである。

日露戦争から一年ほど後、一九〇六年（明治三十九）二月五日の「光」

に、巡査が泥棒に縄をかけてひいてゆく、この絵が夢二の初登場ではないだろうかと考えられている。つづいてその二月二十日の紙面に、反戦的な意味で注目された絵がある。小さな行列の、前を歩く二人は大小の太鼓をそれぞれに持ち、つづいて片手片足の松葉杖の凱旋兵士、それにつづく丸髭の妻は泣きながら袂を顔にあて、最後に村長と書いた旗を立てた禿頭で紋付の男、の一隊である。その線描はまだ幼く、洗練されていないにもかかわらず、滑稽な味と意外に沈痛な迫力がある。

また「光」三月五日の紙上には「うり物」と題するコマ絵がある。電車のレールの上に寝そべる男、そのうしろに「うり物」と札をつけた人力車が置かれている。東京市内に電車が開通して人力車夫の仕事が奪われるという意味であろうか。その他「かくても自殺は罪なりや」「国家と人民の縮図」と題したものもある。このような夢二にたいして当時この新聞の読者たちが、社会主義と反戦の画家としての

成長を彼に期待したとしても、それは無理からぬことであろう。また夢二は当時それらの新聞を街頭に立売りしたこともあったといわれている。反戦の画家としてそれは矛盾しない行為であり、みじかい一時期、夢二にたいして彼の友人たちがそんなイメージで彼を見たとしても、それもまた当然のことであろう。だが夢二はこのような期待の路線からやがて次第に外れていったようである。そのことについて若い日の友人だった荒畑寒村が自叙伝のなかで次のように書いている。

「竹久夢二が往年の社会主義青年であったといったら、きつと驚く人があるに違いないと思うが、彼もまた平民社の常連の一人であったのだ。そればかりでなく、帰京した私をしばらく寄食させたのも実に彼であった。当時、竹久は岡栄一郎君と二人で小石川雜司ヶ谷の鬼子母神に近い一農家に間借して、自炊生活を営んでいた。岡は早稲田大学の文科生、竹久は早稲田実業の生徒、二人とも



夢二の最初の挿絵
「白衣の骸骨と泣く妻」

平民社に出入する同志であつて、三人は水とパンだけで過す日の多い生活も意に介せず、社会主義実現の空想に耽つて奔放な議論をたたかわせていた。竹久はもともと画家が志望で、父親の命令でやむなく籍だけは実業学校にいていたが、毎目白馬会の洋画研究所にばかり通つていたから、試験には落第するし国許からは送金を絶たれて大いに閉口していた。——ある日、彼は厚い自筆の習作画帳を私に示して、この中の適当なものを「直言」の誌上に発表してもらえまいかと相談した。見ると、絵はまだうまいとはいえないがその反戦的な

寓意を面白く感じたので、私は堺先生にその発表を依頼して快諾を得た。「直言」第二十号（六・一八）に掲げられた、赤十字のマークのついた白衣の骸骨と並んで丸髭の若い女が泣く挿絵（上を参照）が、夢二の作の世に出た最初であらうと思う。その後、彼の絵は明治四十年の日刊平民までひきつづき発表され、夢二の名はようやく世に認められるようになったのであるが、彼は成功につれて昔のことなどは都合よく忘れてしまった。（『寒村自伝』）

さし絵画家として売出す前の若かった夢二が明治の社会主義青年であつたということは『寒村自伝』に書かれるまではひろく知られていなかったかもしれない。しかし月刊「平民新聞」などのさし絵、コマ絵などに見る反戦的な姿勢は、二十二、三歳ごろの彼の思想傾向を語つて余りがある。（つづく）

シベリア抑留の記録

秋山さんの長女・坂本富沙子さんから届いた「両親の思い出」。

消えない影像 (2)

父の思い出、金沢での生活

坂本 富沙子 (84歳)

「俺はシベリヤで一度死んでいるのだ」と言っていた父の人生は並大抵ではなかった。今過去を振り返った時しみじみ思うのです。一目散に金沢に帰ってきた金沢が実家の母には、ホッとしただろうが、友人ただ一人居ない金沢へソ連抑留三年後、生き延びて帰って来た父は、本当に淋しかっただろうなど父を思うたびに涙がでます。

それからの人生は、貧困の二文字が父の生活にの

しかかり離れることがありませんでした。

父の故郷の両親から「家もある。何の心配もないから戻っておいで」と何度も声がかかったが、母は頑として行くのを嫌がりました。

「ハイカラできれいな人」とまわりから言い続けられて来た母は「小さな田舎ぐらしが嫌だ」と私ら子ども達に言ったことがありました。

新婚の頃に義母に「何も知らない娘」と言われ、義母を厳しい人と避けていた母。私は物心ついて以来、母が余り好きではなかった。いつも化粧して小綺麗にしていた。小学校の頃にもたまに参観に来る母を見ては、クラスメイトが次々と「きれいなお母さんやね」と言ってこられることが「あなたとは反対に……」と言われている様で、氣にくわなかった。女性らしいのだろうが、私にはその着飾っている母を見下す気持ちがありました。

父は食べ盛り四人の子と母の両親、七人の先頭に

立ち、唯々働きまわるだけだったのです。ちょっと時間があると円卓の上で自分の歩いて来た道を営々と書いていた人でした。



母・芳子、88歳の時。千木園の新年会で。今年4月、百四歳の天寿を全うしました。

父の笑顔の写真はほとんどなくこの笑顔は実にうれしそうです。釣りが大好きだった父の大会成績は良かったです。58歳頃の笑顔。

(富沙子)

一つ書き上げると「読んでみるか？」と差し出されましたが、軍隊のことや留守中の事、辛かったことや暗いことなど、面白くもなんともないことばかり。私には全く分からぬことだし、お義理でさっと目を通して、何の思いもないまゝにパラパラと見て返してしまっていました。当時はそうしたことをなるべく嫌だと避けていた私には、何とも苦手な分野でした。場所の事情も知らないし、文章も堅く、分かるはずがありませんでした。

今は父の記憶の確かな記録を思い出しながら部分読みして、「ひとつ、ひとつ丁寧を読むべきだったなあ」と、深く反省をしています。

満州のことなど一つひとつ手書きの地図を書き、町の名前を入れて実に詳細であったことが思い出されます。今になってこれはどうと聞かれても何も憶えていない私にはどうしようもなく「生き字引」の人だったと思うばかり。



仕事を

続けなが

ら、「国の

ため、人々

のため」

とボラン

ティアを

し続けた父。

当時、金沢駅西地区一帯は農村風景で、その一角につくられた新興住宅地に小さな家を家族全員で建てました。

父は、町会長をして地域住民と一緒に神社を建て、町内に祭りを作り、保育園を建て、川に橋を架けるなど、忙しく走り回っていました。

子ども達が育つて、やっと夫婦二人の生活になってからも、母には「あの満州から四人の子ども全員を元気に連れ帰ってくれた。そんな大仕事をしてくれた。それで充分だ」と、絶対母には共働きをさせ

ない父でした。そして母はずっと好き放題に生きてきました。

すべての権力者に決してくじけることなく総てがボランティアで、持ち出すことの方が多かった父に「いい加減にしてや、一文にもならんのに」と、母と二人でなじり続けていました。

そのたびに父は、「人間は誠実に生きていれば必ず相手には通じる」と自分の思いを話し、「人のために、社会のために」の信念は変わりませんでした。

昭和六十一年四月、これからゆっくり楽しんでもらいたいと願っていたのに、半年余りの入院で父は亡くなりました。享年七十四歳。

その葬儀には町会すべての人が参集して手を合わせて下さいました。父の苦勞したことは、当時一緒に役員をした方々から次々と聞かされました。父の兄弟姉妹が静岡から駆けつけ「働き、働き、働きのぬいて去ってしまったな」と読まれた長兄の弔辞に

唯々涙しました。

「父ちゃん、皆さん分かっていてくれたんだね」と泣きながら心の中で話しました。

最後に、「社会に伝えるのだ」と言い続けていた父の手記をまとめてあげたいとずっと思っていたのですが、このたび「和川柳社」会報に紹介するよう勧めて頂いたのが編集者の渡辺寛さんです。お陰で陽の目にあえ、皆さまに読んでいただけたこと、本当に嬉しく、ここに改め御礼申し上げます。

「和川柳社」の益々の御発展をお祈り致します。

令和二年九月

坂本富沙子

※今、秋山茂さんの手記を本にするための準備をしています。(編集子)

異国の丘

増田幸治 作詞
佐伯孝正 補作
吉田 作曲

きよ うも く れー ゆー く い こ く の おー かか にに
きよ うも く れー ゆー く い こ く の おー かか にに

と も よー つ ら か ろー せ つ な かー ろ
お も い ー き む か らー ひ が たー ろ

が ま だ ま て っ ろ あ う し が す ぎ り
なた お ー ー な ー そ こ っ の た つ え り
に

か え る ひ も く る は さ が く る
の た ど る ー ー く ま で そ の ひ ま で

抑留兵の中で歌われていた「異国の丘」。戦後、中村耕造がNHKのご自慢で歌って有名になった。作者不明だったが後に判明。作詞は増田幸治、作曲は吉田正、歌った中村耕造の三人ともソ連抑留者で48年帰還された。

編集後記を兼ねて

▼秋山茂さんの連載が終り、

娘さんの思い出を紹介しました。次号は読者からの感想を。▼白眞弓さんから立入川柳が届きました。コーナーに紹介しました(6P)。感謝！これは難しい！▼今年最後の大きなイベントが残っています。川柳中興の祖・井上

剣花坊生誕150年を記念する大がかりな誌上川柳大会。全国14の著名な川柳結社の代表が選者です。こぞつて応募しましょう。

◇題Ⅱ「柳・樽・寺・剣・花・坊」の6つ。

各題Ⅱ2句吐。

◇雑詠Ⅱ2句吐。

◇投句料Ⅱ1000円(切手不可)

◇べ切りⅡ11月20日(金) 必着

◇投句先 〒167-0031

東京都杉並区本天沼2-2-1

平宗星方 東京川柳会事務局宛

電話03(3396)6030

Eメール=star_t@com.home.ne.jp

▼会報の読者が続々？増えています。これからよろしく。(周立東爺)

10月例会ご案内(毎月第4木曜日)

◆例会 10月22日(木) ◆投稿×切…19日(月)

◆課題「無」 3句以内 ◆自由吟…5句以内

◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。

◆顔合わせしましょう。

会場については問い合わせ下さい。pm7時。

●投稿FAX(076)254-0762

●メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

「和川柳社」会報
会員募集しています！

同人：4000円/年
投句/購読：2000円/年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート&土の音工房》オカリナ制作・上村彰

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30 (渡辺 寛)

電話FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」